

## 平成 28 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月

### 1. 学校概要

学校名 愛知県岡崎市立梅園小学校

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  中高一貫教育  高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

所在地 〒444-0071  
愛知県岡崎市稲熊町4丁目68番地1

E-mail omezono@st.oklab.ed.jp

Website http://cms.oklab.ed.jp/el/omezono/

児童生徒数 男子 413名 女子 359名 合計 772名  
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1	タイトル：梅園という社会をよりよく創り上げていく子どもの育成
2	実施期間 平成28年 5月 2日 ～ 平成29年 2月 28日
3	領域 学習指導 地域との連携 道德教育 環境教育 その他( 梅園百歳記念事業 )
4	ねらい 平成28年(2016)、本校が梅園の地に移り、「梅園」が校名となり100周年を迎える(梅園百歳)。これを絶好の機会ととらえ、子どもたちが学校や校区のこれまでの経緯に関心をもち調査をしたり、また社会(学校や校区、またその人々)に働きかけたりすることを通して、ただ単に学習した内容を社会生活に生かすという社会に順応する子どもを育てるだけでなく、自らが確かな思いをもって梅園という社会をよりよく創り上げていく子どもとなるように育てたいと考えた。本活動は、本年度が2年次にあたり、今後も一部の活動は継続していく。
5	仮説・手だて 【仮説】 子どもたちが「梅園百歳」を周りの人たちに伝え知ってもらおう活動をしたり、学校を擬人化し学校が喜ぶ活動を全校で工夫し実践したりしていけば、子どもたちが自分たちの周りの社会(梅園)に働きかけ、それをよりよく創り上げていきたいという思いを育てることにつながるであろう。 【具体的方策】(本年度実施済の活動のみ掲載) ○テーマ搭の飾りつけ(6・1年) ○百梅かるたの作成(6年) ○記念Tシャツ・ポロシャツ、タオルの作成(6年) ○百梅くんマスコットの作成(6年) ○梅園プライドダンスの作成(6年) ○フェスティバルポスターの作成(6年) ○全校もちつき大会(6年) ○梅ジュース・梅かんでん・梅料理の考案と調理(3・5・6年) ○御神輿の作成(5年) ○花いっぱい・あいさつ・せいとん・わくわく清掃活動(4年) ○昔の遊び調べ(3年) ○記念イベント(各学年・学級)
6	活動の経過 4月 ・新研究主題のもとで、授業研究の推進および「梅園百歳」記念事業の新規活動と継続活動の計画・骨子立案。 ・各学年で昨年度の「梅園百歳」記念事業の活動についての振り返りと10月29日(土)のフェスティバルに向けて取り組む活動内容の具体案の検討。各学級での子どもたちとの話し合い。 ・児童と教師、教師間で意見交換を重ねる(～6月)。 5月 ・各主任を中心とした「梅園百歳」記念事業委員会で、学年ごとに実施する活動内容を調整。 ・フェスティバルまでの各学年の活動の流れ・計画書の作成。 ・各学年の活動を開始。

### ①「百梅かるた」の作成

「百梅かるた」は6年生が中心となって、梅園小・梅園学区の歴史や文化等を題材として作成したものである。この活動は、梅園百歳を記念したものであるとともに、自分たちがこの学区に住みながらも、あまりにも学区の歴史や文化等を知らないということから、6年生が自ら調べたものを「かるた」にして、多くの人に伝えようとしたものである。次がその主なねらいである。

- (1) 1年から6年までの子どもたちが、かるたを通して、梅園小学校・学区の歴史や文化を知ることができれば、学校や郷土への愛着を一層持てるようになる。
- (2) 全校児童の家庭や学区の人に配付し、かるたを楽しみながら行うことができれば、多くの人が梅園小学校学区の歴史や文化を知る機会となる。
- (3) 6年生が責任を持って作り、かるた大会を開くことができれば、自分たちの活動が学校・学区に役立った実感を味わうことができ、大きな自信となる。

かるたの制作には、6年生の子どもたちの主体的な取り組みにより、約半年を要した。学区にある多くの文化財・歴史的な遺物・産業などのリストアップとその中から44句の選定、字札のことばを考えるための現地へ行っての調査活動と絵札を描くための写真撮影などの資料収集、字札や絵札を描いてもらうための学区在住の書家や画家との折衝と依頼など、かなりの時間と労力を要した。何よりも、学区の人たちも使用するかるたであり、今後も末永く使われることを考えると、記載内容に誤りがあるてはならないということで、教師の支援を受けながら慎重に制作を進めた。なお、低学年の子どもたちも、かるたをしながら勉強ができるように、かるたの字札の裏には文言の説明を書くようにした。こうして、五七の定型調でリズムカルで覚えやすい「百梅かるた」が完成した。

12月に印刷業者から学校に完成品が届き、でき上がった作品に6年生の子どもたちは満足と喜びを表現した。「百梅かるた」は、1家庭に1箱ずつ配付され、正月には、多くの家庭でこのかるたを使って家族で楽しむことができた。さらに、1月の授業参観には全学級で子どもの部・親の部・親子の部に分かれての「百梅かるた大会」を開催した。この大会は、大いに盛り上がり、親子ともに大変好評を博したことにより、以降も実施する恒例行事とすることになった。



●完成した「百梅かるた」

### ②「百梅御神輿」の作成

「百梅御神輿」は、10月29日（土）に開催する梅園百歳を祝うフェスティバルを盛り上げようという目的で、5年生の子どもたちが企画し作成したものである。

デザインから材料の調達（学区にある竹林から竹を切る、学区内にある店舗から段ボールを分けてもらうなど）や制作に至るまでのすべての作業課程で、子どもたちの意欲的な取り組みが見られた。御神輿は、梅園百歳を祝う1体と本年度市制施行百周年を迎えた岡崎市を祝う1体の計2体を作成した。

フェスティバル当日は、グランドオープニングで「ワッショイ」の掛け声とともに登場し、会場の雰囲気を一気に盛り上げる原動力になった。さらに、御神輿は各学級の代表者に受け渡され、学校全体で梅園百歳を祝うことにつながった。



●ステージ前で盛り上げるお神輿

### ③記念Tシャツ「百梅くんTシャツ・タオル」作成

「ぜひ梅園百歳を記念したTシャツ・タオルを作りたい」という6年生のA子の発案を実現化したものである。6年生が個人でまずデザイン案を考え、提案された作品からどのデザインが良いかの検討を重ね、数点に絞られたものの、どれにするか決定打が出ないままの話し合いが続いた。そして、「考えたデザインをプロの人に見てもらって、意見を聴きたい」とう発言から、学区を中心としたデザイン会社12社に意見を求める手紙を送った。その結果、5社から返信があり、その返信を基に再度検討を行った。返信内容には、デザインだけでなく、金額面、宣伝の仕方、素材、販売場所など子どもたちが考えていなかった視点からもアドバイスをいただくことができた。それらの意見を参考に、1つのデザイン案が完成した。完成後、学年、学校、学校職員に意見を聴き、最終的なデザインが完成した。フェスティバル当日には、このデザインのTシャツを着た多くの子どもたちや学区の人たちで、会場が埋め尽くされた。



●完成した  
「Tシャツ・ポロシャツ」

### ④広報活動用「フェスティバルパンフレット」の作成

10月29日(土)に開催する「梅園百歳フェスティバル」用のパンフレットを作成した。A4サイズの8Pの冊子である。冊子には、昨年度からの「梅園百歳」の活動概要、フェスティバル当日のプログラム・会場図・活動の発表内容などが掲載してある。これを各家庭に配付し、また学区へ回覧した結果、フェスティバル当日は、学区在住の多くの人が来校し、子どもたちとともに梅園百歳を祝うことができた。



●「パンフレット」

### ⑤テーマ搭の作成

「梅園百歳フェスティバル」当日には、高さ8mのテーマ搭と横幅14mのステージが設置された。搭には、6年生と1年生が協力して、5m×4mの大きな布に紙の花で、梅園百歳マークの「百梅くん」を描き出した。このテーマ搭により、フェスティバル会場はさらに華やかさを増すことになった。



●テーマ搭

8	成果	<p>○子どもの様子 平成28年10月29日(土)の「梅園百歳フェスティバル」に向け、昨年度から2年間、子どもたちは多様な活動に取り組み、大きな成果と感動を残した。A教諭は、週案にこう記した。「校長先生が言われた。『教師が創ってしまえば、簡単にできてしまう。それでは、子どもたちに何も残らない。何も成長しない』確かに、今回のフェスティバルに至るまでの一つ一つの活動は、子どもたちが考えを出し合い、子どもたちが創り上げた。もちろん教師も助言し、何度も話し合い修正を加えながら進めていった。結果、遠回りをしたり、ときにはスタート地点に戻ったりもした。しかし、前日のブースやステージ発表の準備に教師の指示は無用であった。フェスティバル当日の子どもたちは、自分たちで形にしたという自信と喜びに満ち溢れていた。一生懸命に表現する子どもたちを見ていて感動した。「梅園百歳」の活動を、子どもたちは決して忘れることはないだろうと思った。」</p> <p>6年生に実施したアンケートでは一連の活動に対して「主体的に取り組めた」「楽しく活動ができた」「梅園小学校・梅園学区がより好きになった」と回答した児童が昨年度同様に90%を超え、本活動が子どもたちにとって十分意義のあるものとなったことが分かる。</p> <p>また、全校児童を対象に学年末に実施した「学校評価アンケート」では「いろいろな行事に進んで取り組めた」「今、住んでいる梅園が好きだと思っている」と回答した児童は90%を大きく超える結果となった。</p> <p>○地域の様子 全家庭を対象に学年末に実施した「学校評価アンケート」で「子どもは、学校行事に楽しく取り組んでいる」「今、住んでいる梅園が好きだと思っている」と回答をした保護者も90%に達するという結果になった。このことから、このプロジェクトは校内だけでなく、保護者を中心とした梅園学区にも浸透したことが分かり、このフェスティバルで終わりとなるのではなく、今後とも学区全体を挙げての活動になっていくことを期待したい。今後とも、児童と話し合いを重ねながら、自らが確かな思いをもって梅園という社会をよりよく創り上げていく子どもとなっていくように支援していきたい。</p>
9	課題	<p>「あいさつ・花いっぱい・せいとん・わくわく清掃」活動などについては、今後も継続して行っていく予定ではあるが、「梅園百歳プロジェクト」は本年度で一応の区切りとなる。これらの活動に対して主体的な取り組みを見せた子どもたちの意欲の持続・向上を図っていくための新たな活動・取り組みを考えていく必要がある。</p>

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ( )